



飯綱町コミュニティスクールだより



No.6 令和2年2月1日 飯綱町教育委員会

学校運営協議会によるコミュニティスクールへの移行

飯綱町コミュニティスクールは、【地域とともにある学校】を目指して学校と地域が連携しながら子どもの育成に努めています。

【地域とともにある学校】とするためには、さらに学校を開き、地域住民が学校の抱える課題を共有し支援していく仕組みが必要になります。

令和2年4月より法律に基づいたコミュニティスクールとして歩み出すよう準備を進めています。

法律に基づいたコミュニティスクールの仕組みとなっても、現在行っているコミュニティスクールの仕組みが大きく変わるものではありませんが、転換のポイントは『社会総掛かり』で子どもたちを育む体制を作っていくということです。

かつては学校評議員会で意見をいただいて学校運営に反映してきましたが、これからは、意見をいただくだけでなく学校と方向性を合わせ、一体となって子どもたちの成長に関わる体制を整えていくことがますます重要になっていきます。

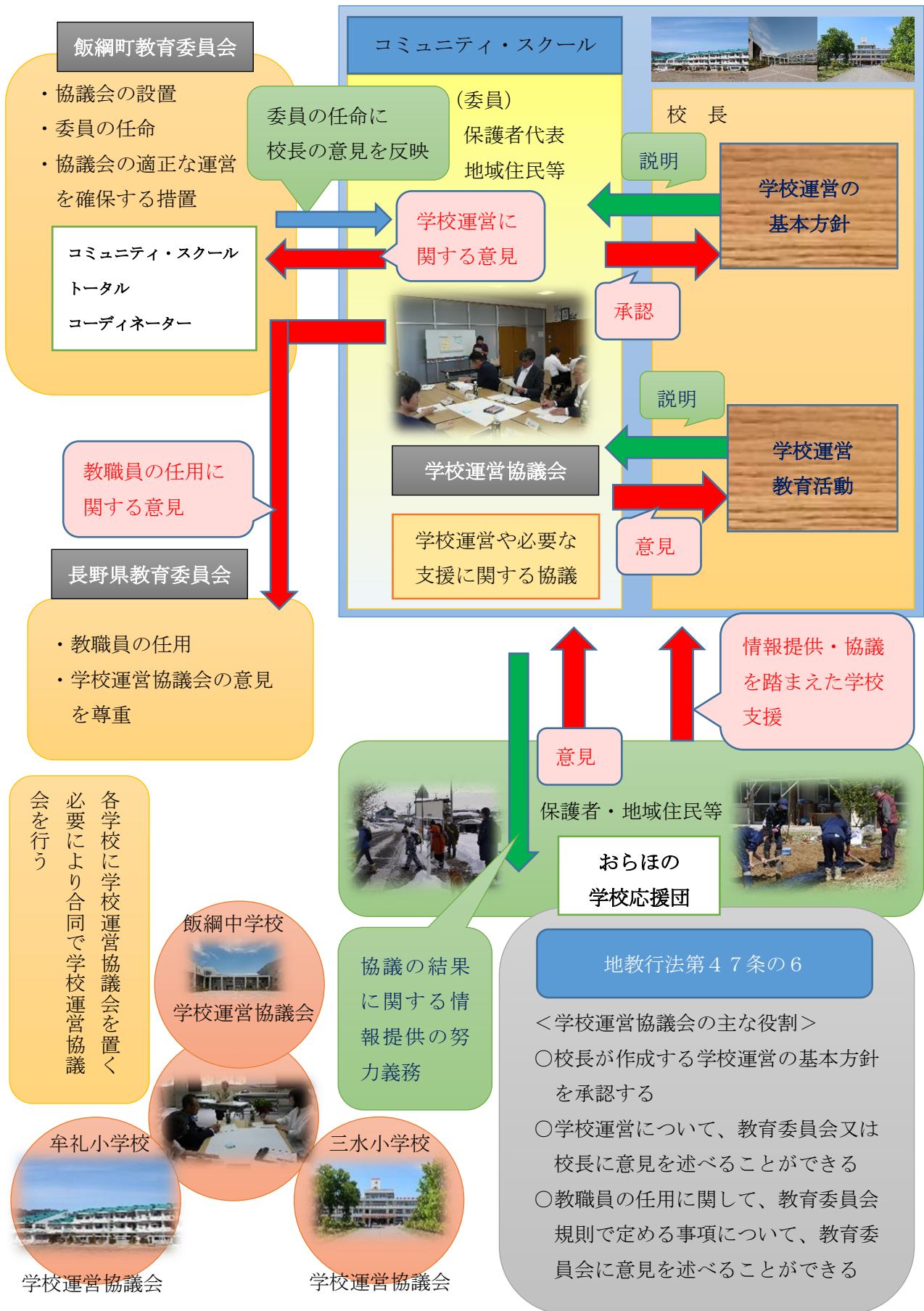
地域住民による学校への支援は、小中学校が中心でした。しかし飯綱町には小中学校の他にも保育園、幼稚園、高校という子育て環境があります。みんな飯綱町の宝です。さらに、行われているボランティア活動も授業中が多かったのですが、子どもたちは学校以外にも過ごしている時間があります。放課後であったり、土曜日曜であったりです。このような時にも地域住民が得意とすることを子どもたちと共に行うことができれば、子どもにとって充実した居場所の確保になります。

このように子育て環境の広がりや質的な深まりが図られてくると、学校だけで子どもへの関わりを担っていくことは、今までの仕組みでは難しくなります。まさに社会総掛かりで行う仕組みが必要となってきます。

町の子どもたちのために魅力あふれる教育環境となるよう住民で知恵を出し合って、飯綱町コミュニティスクールの充実を図っていきます。



飯網町コミュニティ・スクールの仕組み



このようなコミュニティスクールの仕組みを組織し、実践していくことにより、子どもが地域住民の思いを感じながらそれぞれのかげがえのない人生を切り拓いていくようになり、いずれ社会を担っていく時に、ふるさと飯綱町を支える人となったり、たとえ飯綱町から離れたとしてもふるさとへの思いをその地で大切にできる人となったりしていくことを期待して取り組みを進めています。

飯綱町コミュニティ・スクールの願い



地域とともにある学校づくり

- 学びを人生や社会に生かそうとする
- 生きて働く知識、技能の習得
- 未知の状況にも対応できる能力



地域（飯綱町）の活性化

- 飯綱町を背負って立つ
- 飯綱町へ、Uターン
- 他市町村県に出てもふるさとへの思いは変わらない

中学生シードルづくり体験

1月10日（金）に飯綱中学校の1年生が地元のりんごを使ったシードルづくりに挑戦しました。シードル工場は、旧三水第二小学校職員室跡に新設されています。



瓶の中を洗う機械、タンクからシードルを瓶に入れる機械、王冠をつける機械などいろいろな機械があり、興味深かったです。ラベルやポスターを決めて、たくさんのお客様に手にとってもらいたいと思います。（中学生の感想から抜粋）



生徒や生徒の家族が育てたりんごを使ったシードルづくりの体験は、飯綱町特産のりんごを生かす学びとなりました。

工場に入っている施設が、かつての学び舎でもあるので生徒の中には、当時の思いをかみしめながらの作業になったかもしれません。

地域に密着した体験活動は、生徒の心に「ふるさと飯綱町」の持つ良さを知る機会となりました。

小学生スキー教室

暖冬傾向でどこのスキー場も雪不足となっている中で、小学校のスキー教室ができるか心配はありましたが1月15日午後から降り始めた雪がいつなりリゾートスキー場では新雪が10センチとなりました。1月16日（木）17日（金）の牟礼小学校と1月23日（木）の三水小学校のスキー教室が計画通りに行われました。降雪機も備えた当町のスキー場は、雪不足を補い子どもたちの楽しみにしていた行事の強い味方になりました。



町内にスキー場を持っている小学校ということで、子どもたちは毎年スキー教室に取り組んでいます。1年生から6回積み重ねているだけでも、6年生ともなると自分の思いの滑りを楽しめるところまで上達しています。冬の季節ならではの楽しみもまた、飯綱町の良さを知る機会となっています。